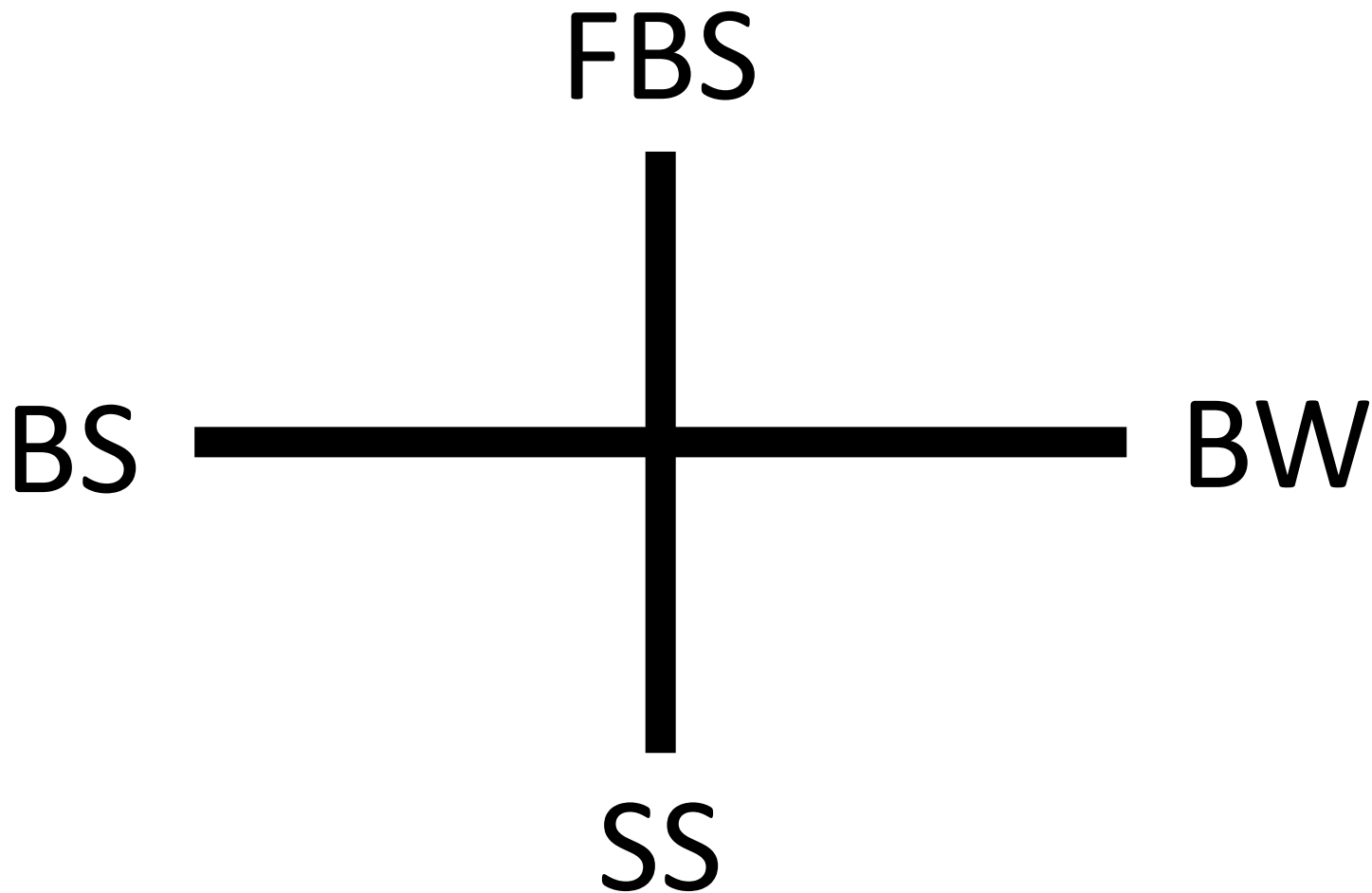
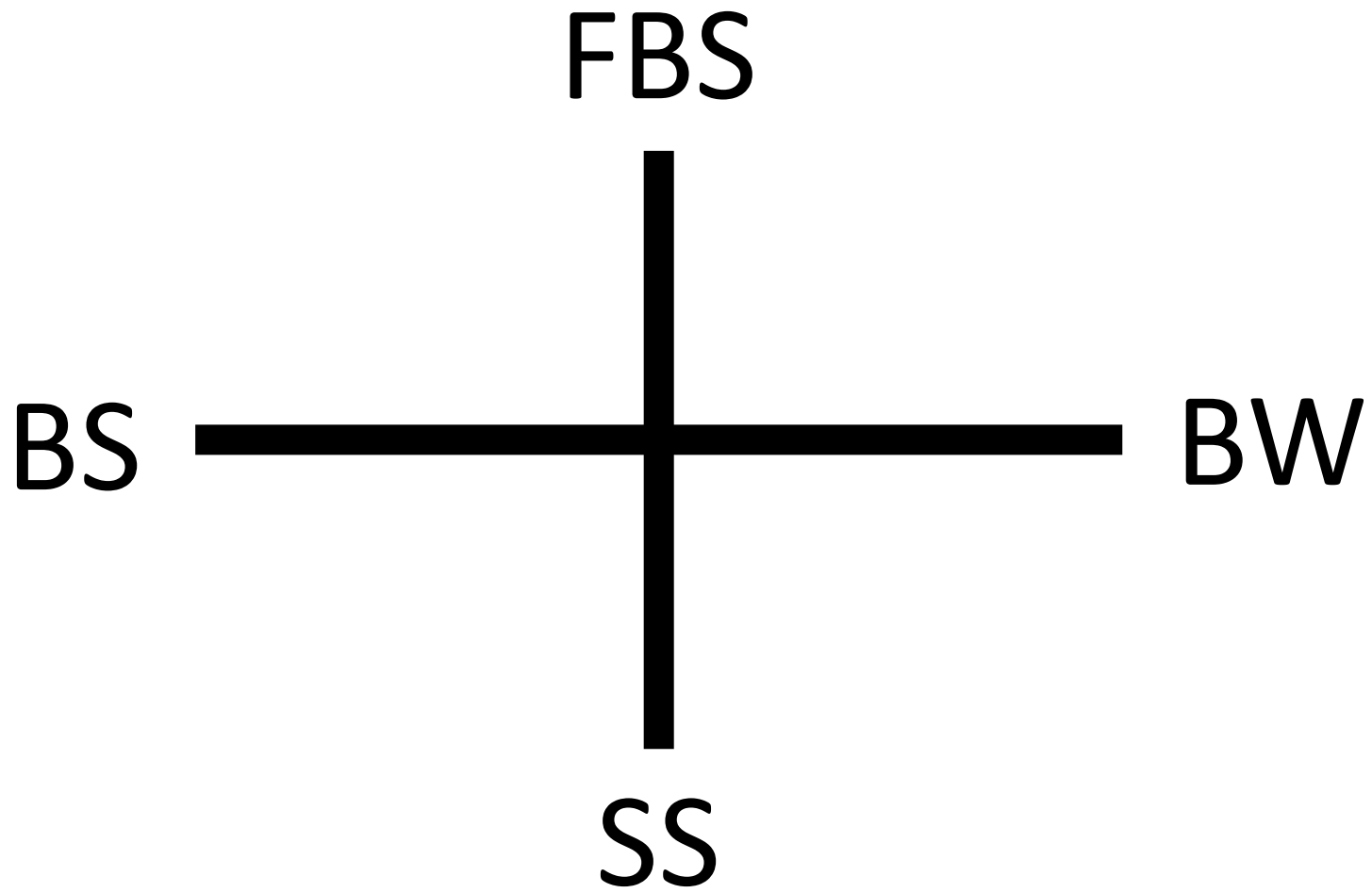


ブレスト、4つのタイプ

ブレストは、いろいろな発展形が存在する



4つのスタイルがある。各々長短あり。
場面や目的に合うものを使うと効果的。



Brain Storming

FBS

BW

SS

人：3～6人

(Osborn：5～10人)

時：20分 (5 / 20 / 60 / 120)

(Osborn：60分)

数：20～60個

(Osborn：100個)

1

判断を先に延ばす

2

未成熟な案を育成する

3

量を求める

4

既出の案を発展させる

先に褒める (良い所に光を当てる)

一度に一つの会話

主題を絞る

記録共有する

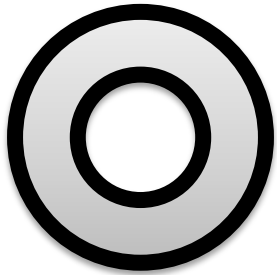
良い点

創造的な思考を
ガイドしてくれる
「場のルール」が
ある

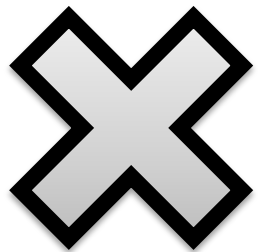
発案作業は「集団」での方が
疲労度が少ないので、より
創造的努力を引き
出すことができる

(そのほかの良い点、欠点)

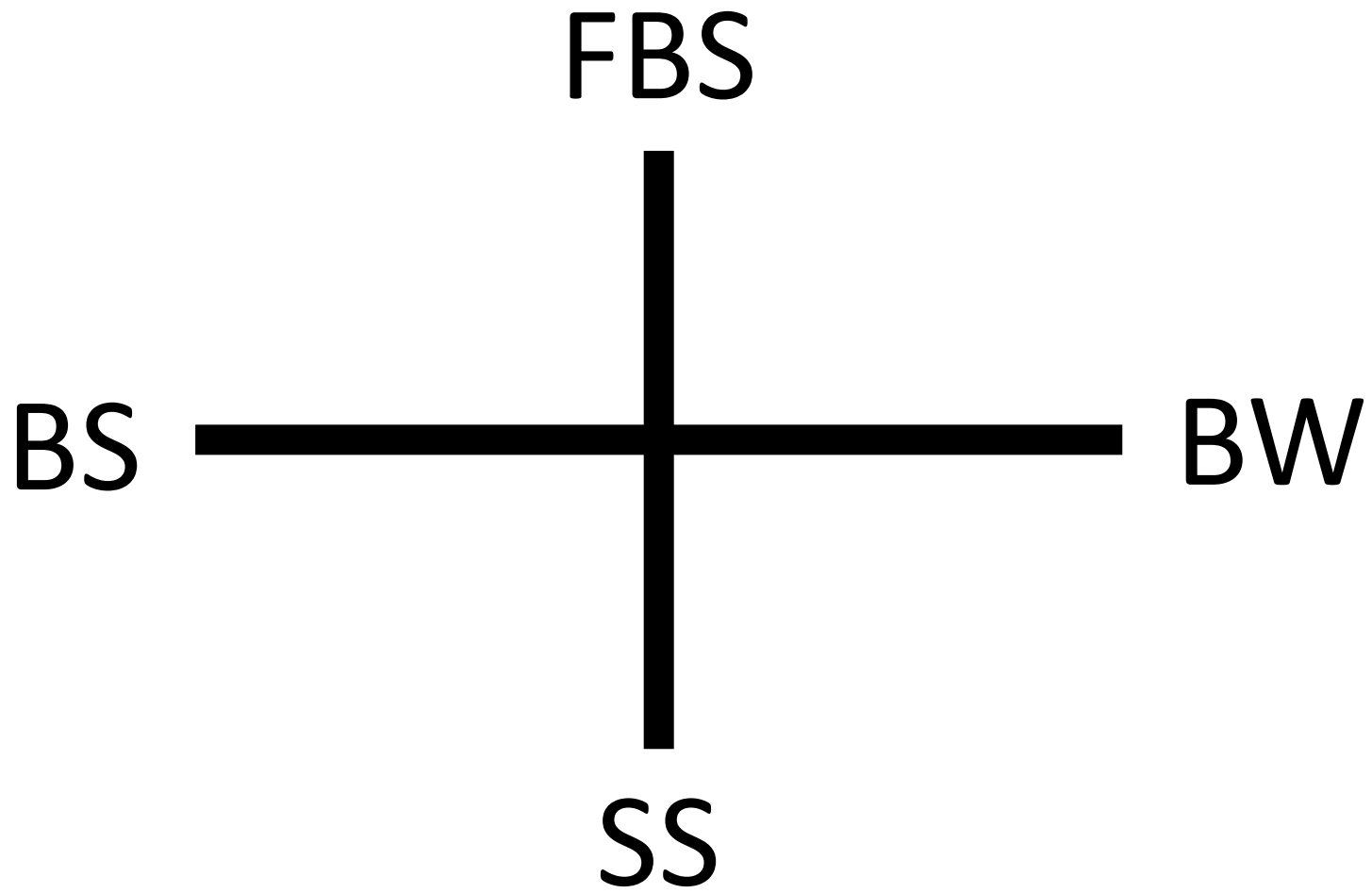
BS : Brainstorming



- ・グループの凝集性が高いとアイデアが非常に発展する
- ・短い時間でも行える
- ・汎用性が高い
- ・（事情が許せば）どこでも可能

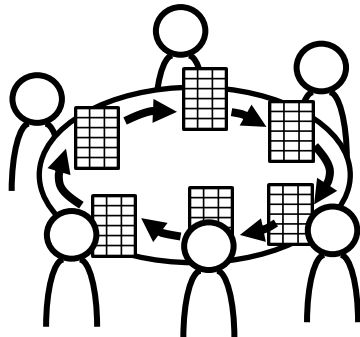
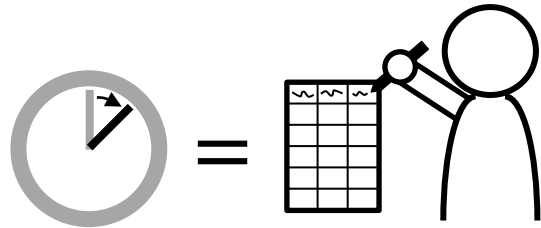
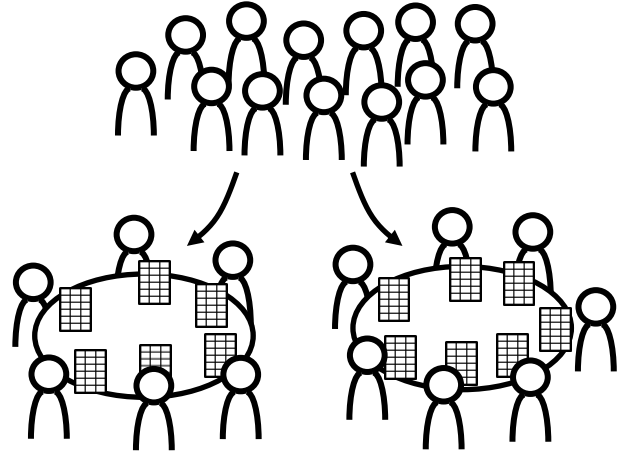


- ・進行役に高い技量がいる
- ・声の大きい人に発言が集中する
- ・案あるが出せない人がいる
- ・ホワイトボードがないと空中戦になりがち
- ・書記の要約が意図と違うと貢献意欲は減る





書くブレスト



- ① 2グループに分かれ、座る
- ② テーマの確認
- ③ テーマを書く (BWシートに)
- ④ アイデアを書く (3分、3つ)
- ⑤ 左に回す
- ⑥ 繰り返す (④⑤を。6行目まで)

良い点

回すたびに大量のアイデアを見れて、発想が刺激される

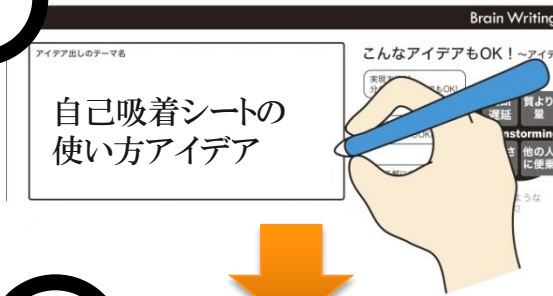
新しい情報に触れた時は、発想が出やすい時。シートが回って来るたびにそういうタイミングが来る

突飛なアイデアを出してもらいやすい

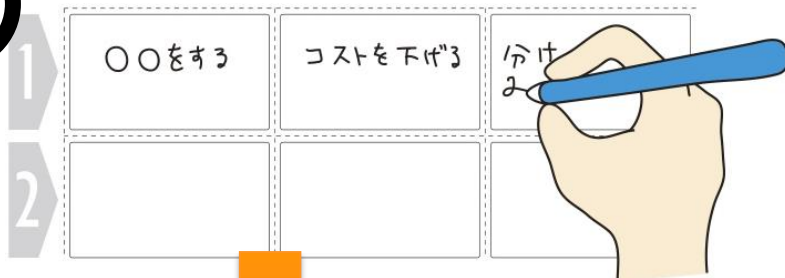
アイデアへの批判が出ない

仮に、どうしても批判したい場合でも、文字に残る場合、人は良く考慮された批判コメントを書く

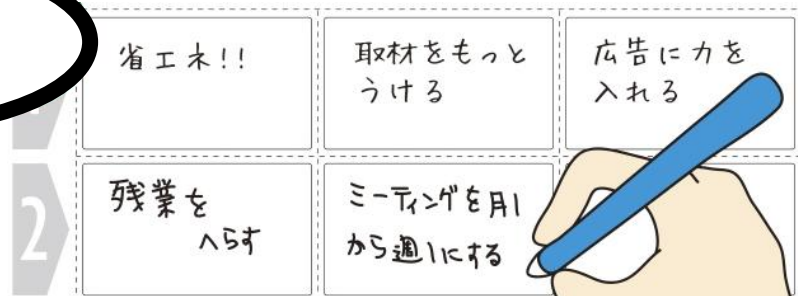
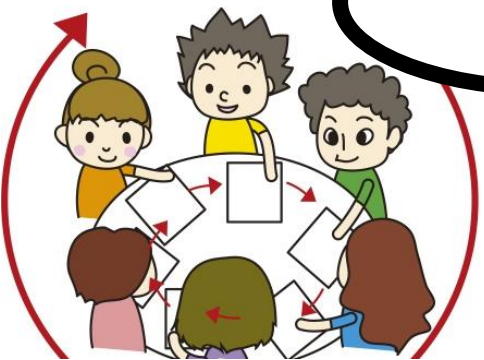
0



1

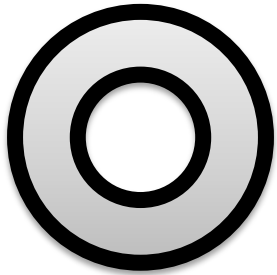


2~6



(そのほかの良い点、欠点)

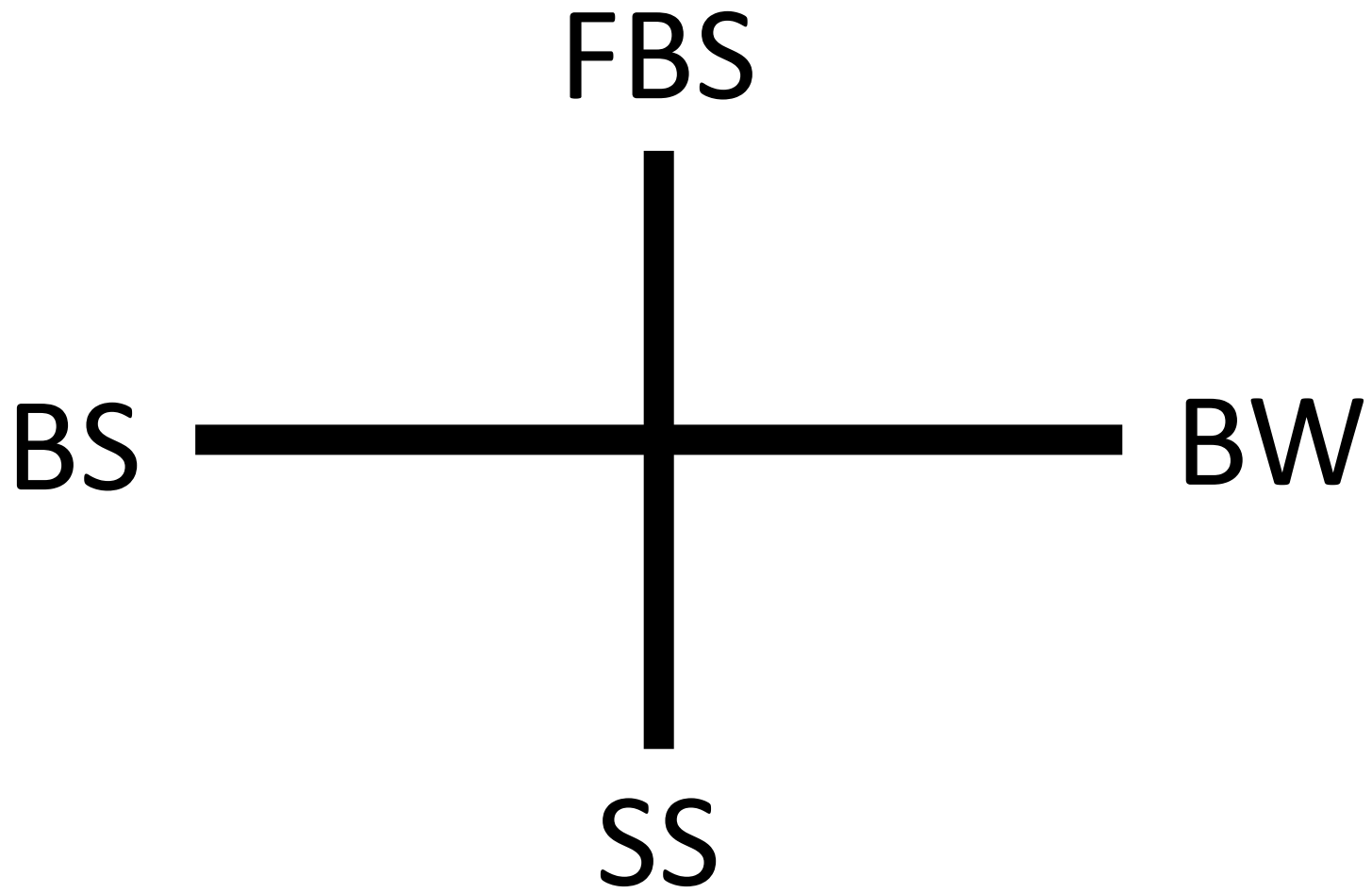
BW : Brainwriting



- 発言の苦手な人からも出してもらえる (技術者組織に特に向く)
- 大量に出る
- 良案の数が大まかに予想できる (55/15/4%)
- 全てのアイデアが紙に残る
- テーマから逸れにくい
- 新米の進行役でもできる

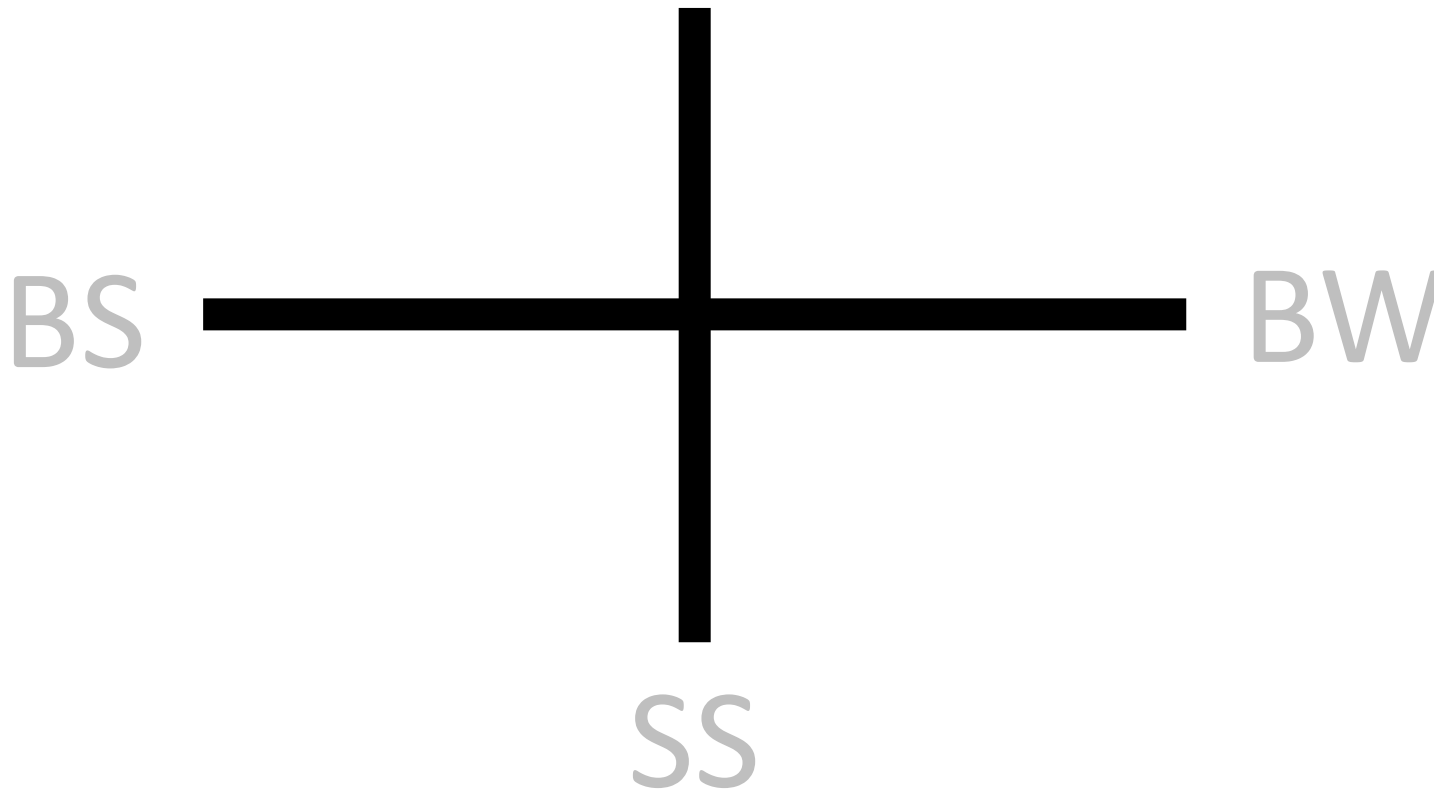


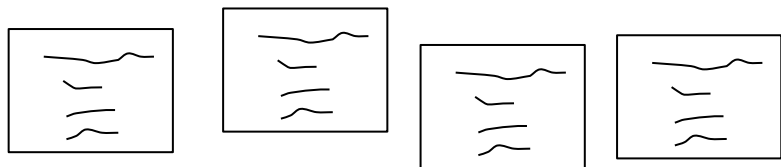
- 準備が要る (紙、机椅子)
- 一定の時間がかかる
- テーマの設定に考慮が要る (一度始めると質問できないため)
- 口頭でのアイデアの提示の方が得意な人には、やや窮屈



Flip board BrainStorming

人：6人 (3~8)
時：10 (5+5) 分×2
数：6個×2

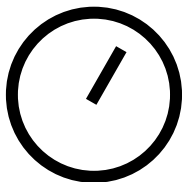
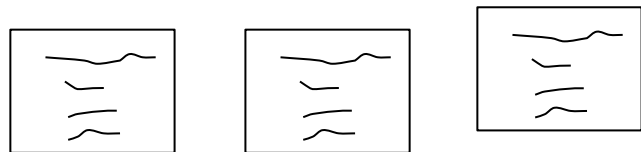




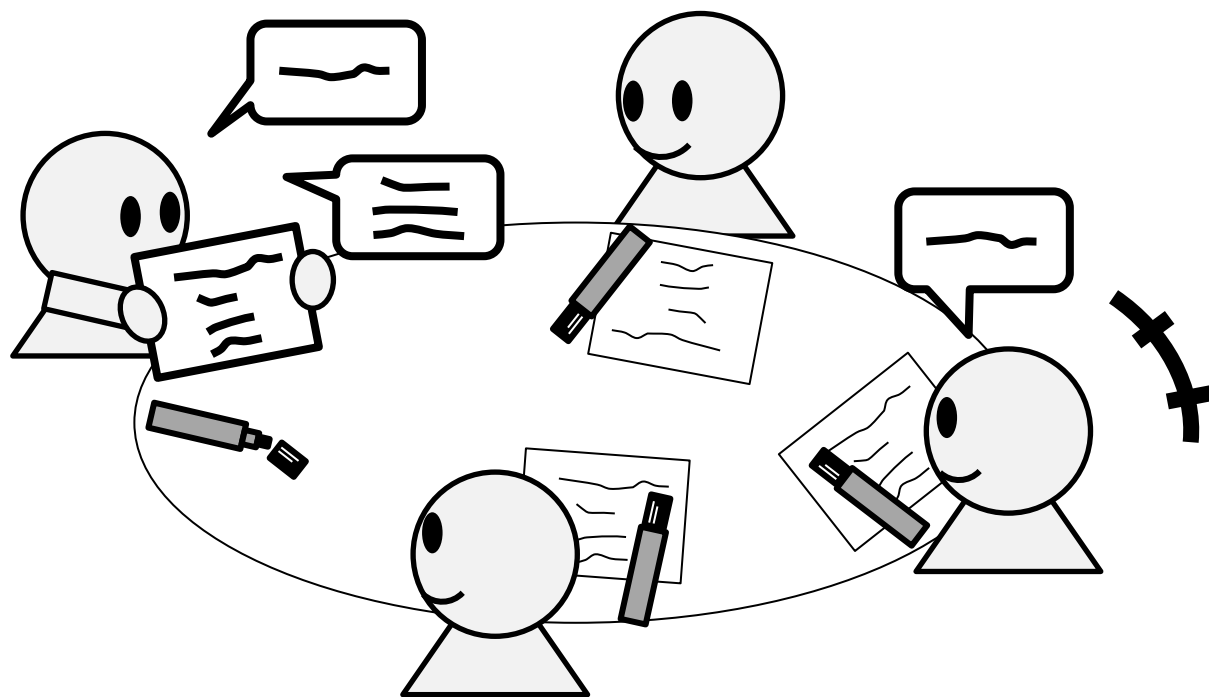
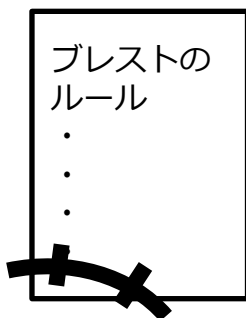
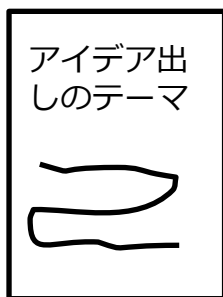
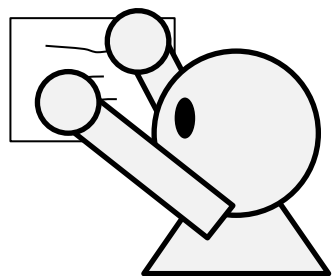
個人発想 (5分)



紹介と発展 (5分)



↓
もう一巡



良い点

普段発言しない人からも出してもらえる

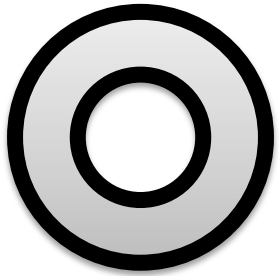
アイデアが無いのと発言をしないのは別物。コミュニケーションの形態を調整することでアイデアを引き出すことはある程度可能。

多様な意見を多様なまま出してもらえる

普通のBSでアイデア出しを行う場合、発言待ちの人は、組織長の発言に強く影響を受ける。オリジナルの意見の代わりに「私も賛成です」という意見収束を自然と生んでしまうが、拡げるフェーズでは、多様な選択肢を提示してもらいたい。先に書いておくことで収束を回避できる。

(そのほかの良い点、欠点)

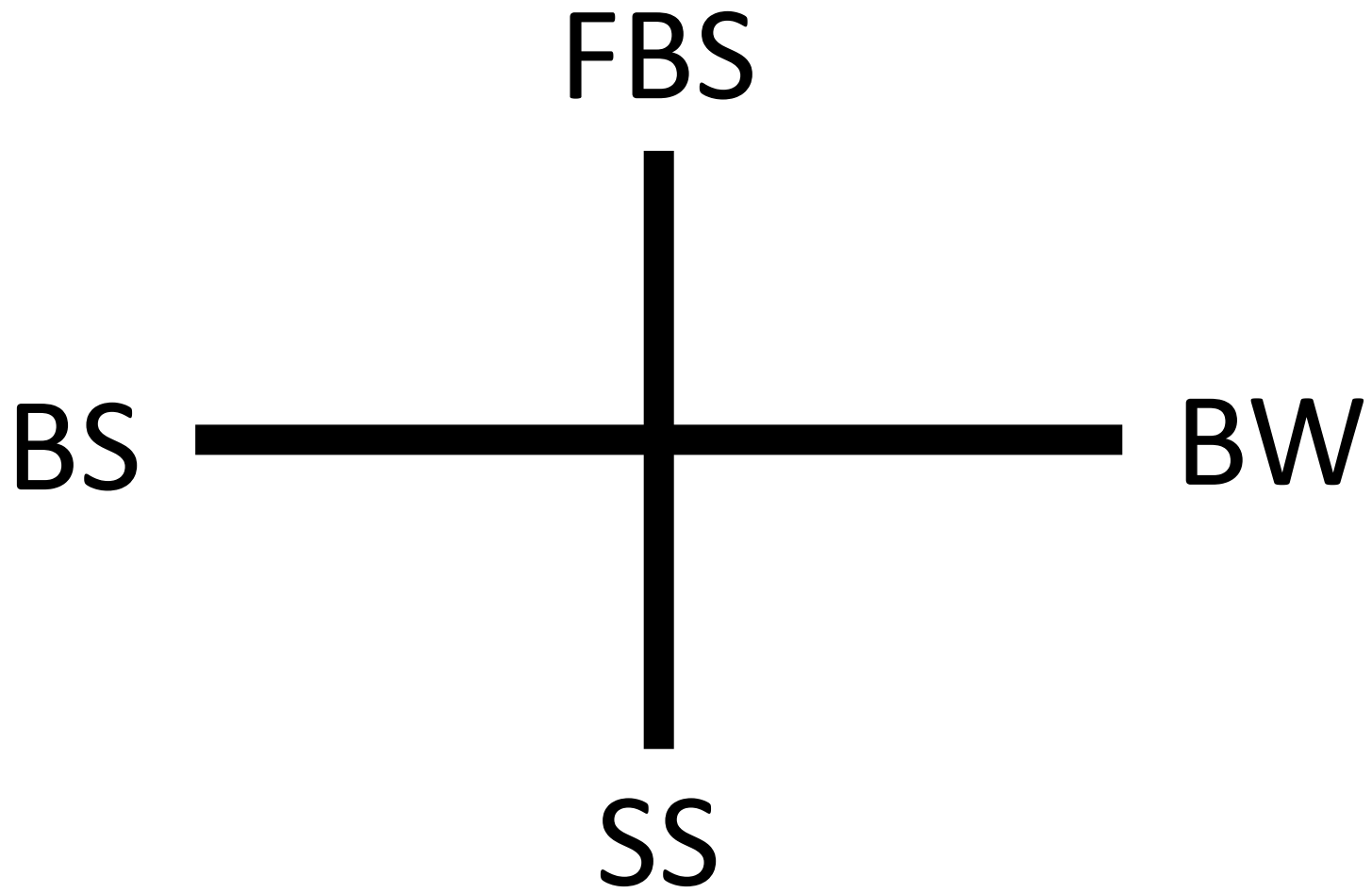
FBS : Flip board Brainstorming

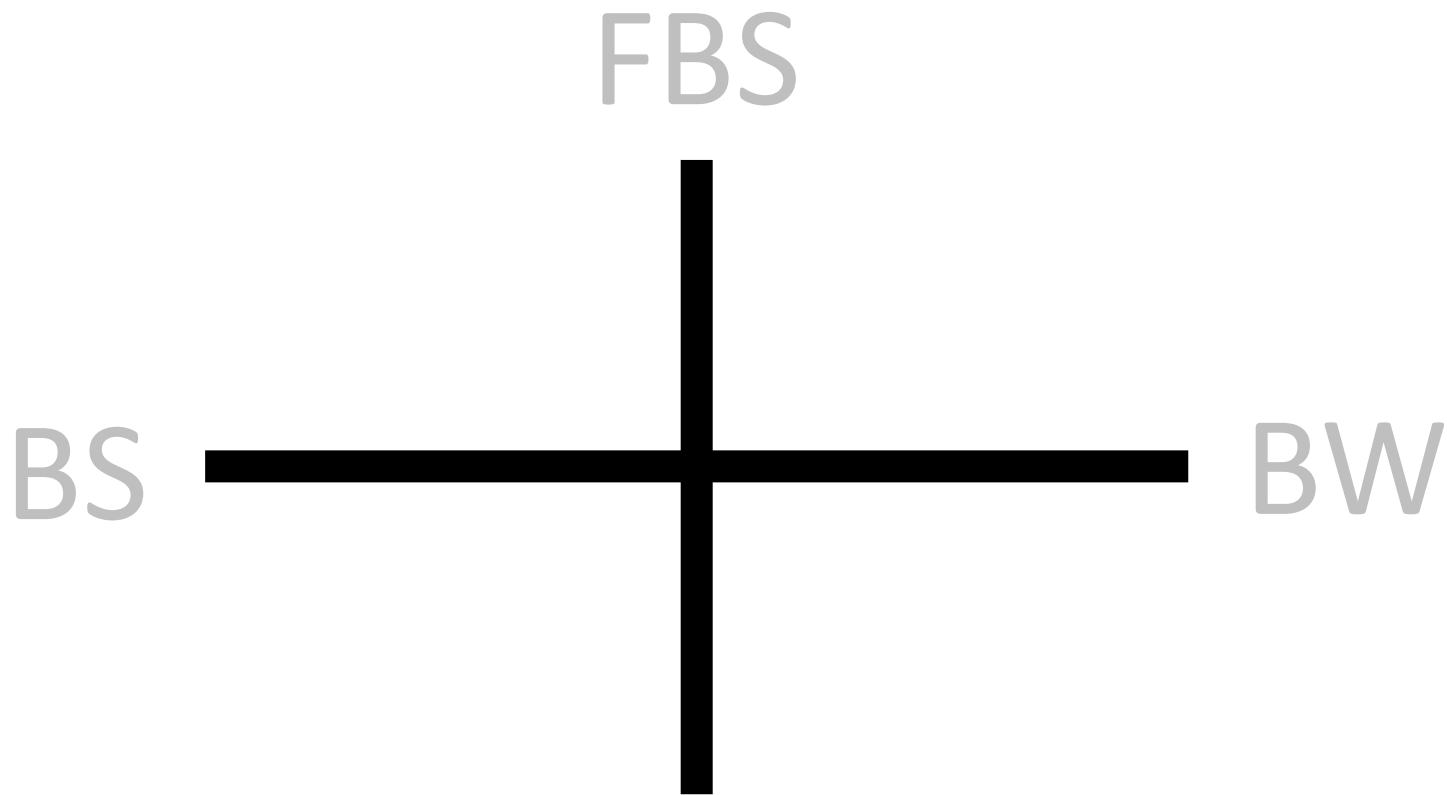


- ・ 1人で考える時間が取れる
(発想には「集団発想→1人発想」の流れを作ると良い)
- ・ 絵的な概念も示せる
- ・ BWより短い時間で出来る
- ・ BSをやれるほど場が温まっていない時に出来る
- ・ アイデアを紙に残せる



- ・ 道具（フリップか、クリップボード）が要る
- ・ ややフォーマルな感じが出る
- ・ 短時間で量を出すことは難しい

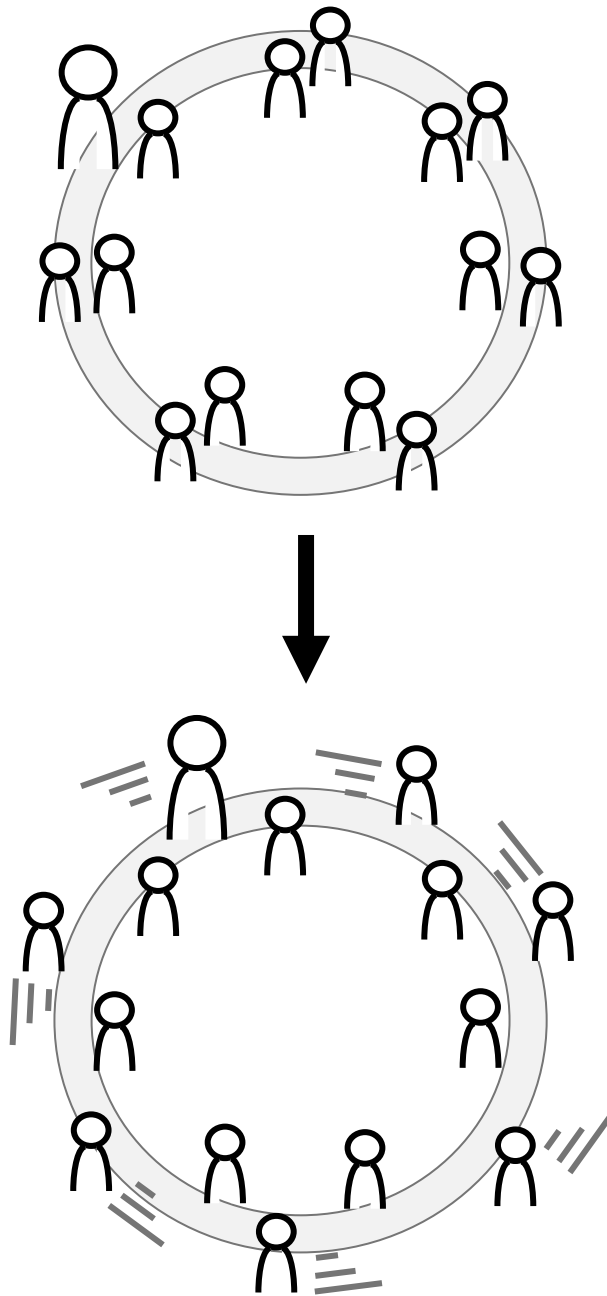




Speed
Storming

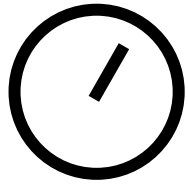
人：20人 (4~100)
時：30分
数：60個~

五分交代のペアブレスト



- ① ペアで、輪に
- ② 5分間、ペアで
(ブレスト。お互いのアイデアを
紹介しあって、広げる)
- ③ 1分間、メモタイム
(会話を、徐々に収束)
- ④ 挨拶、外側が1つ移動
(時計回りに)

～ 計5～6回、実施



ペアでブレスト (5分)



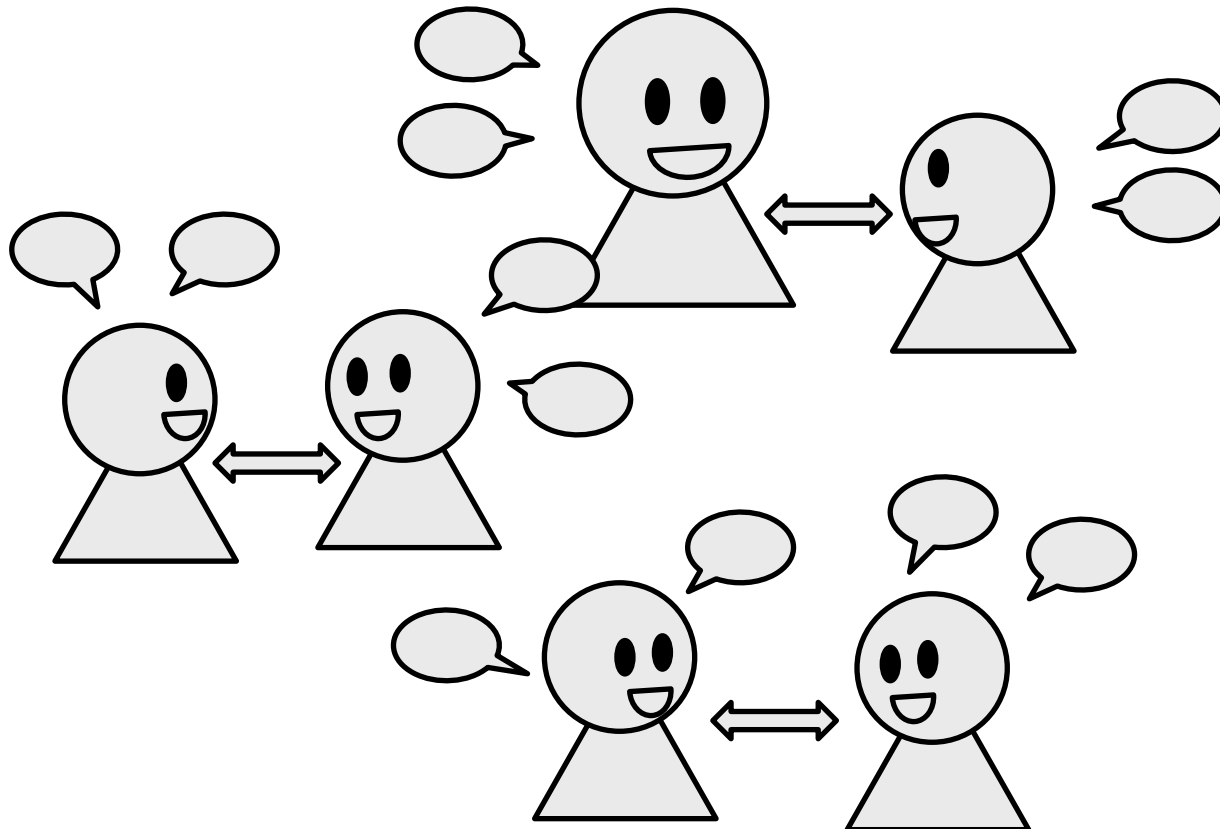
メモタイム (1分)



1つずれて、新しいペア



繰り返す (4~5巡)



良い点

越境的な新しいネタを 生み出しやすい

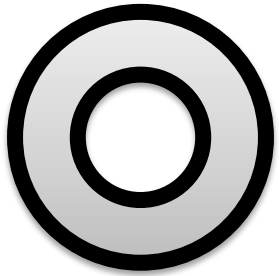
ブレストの相手は一人だけで、かつ周囲もうるさいので、カジュアルな雰囲気になり、アイデアを気楽に言うことができる

次のターンでは発展させたアイデアを出せる

アイデアに対して相手がくれたアイデアを取り入れ、次のターンでは発展させたアイデアを説明できる (初めはうっすらとしかアイデアしかなかった人も何度も話すうちに、曖昧だったアイデアの輪郭が徐々にはっきりしていく)

(そのほかの良い点、欠点)

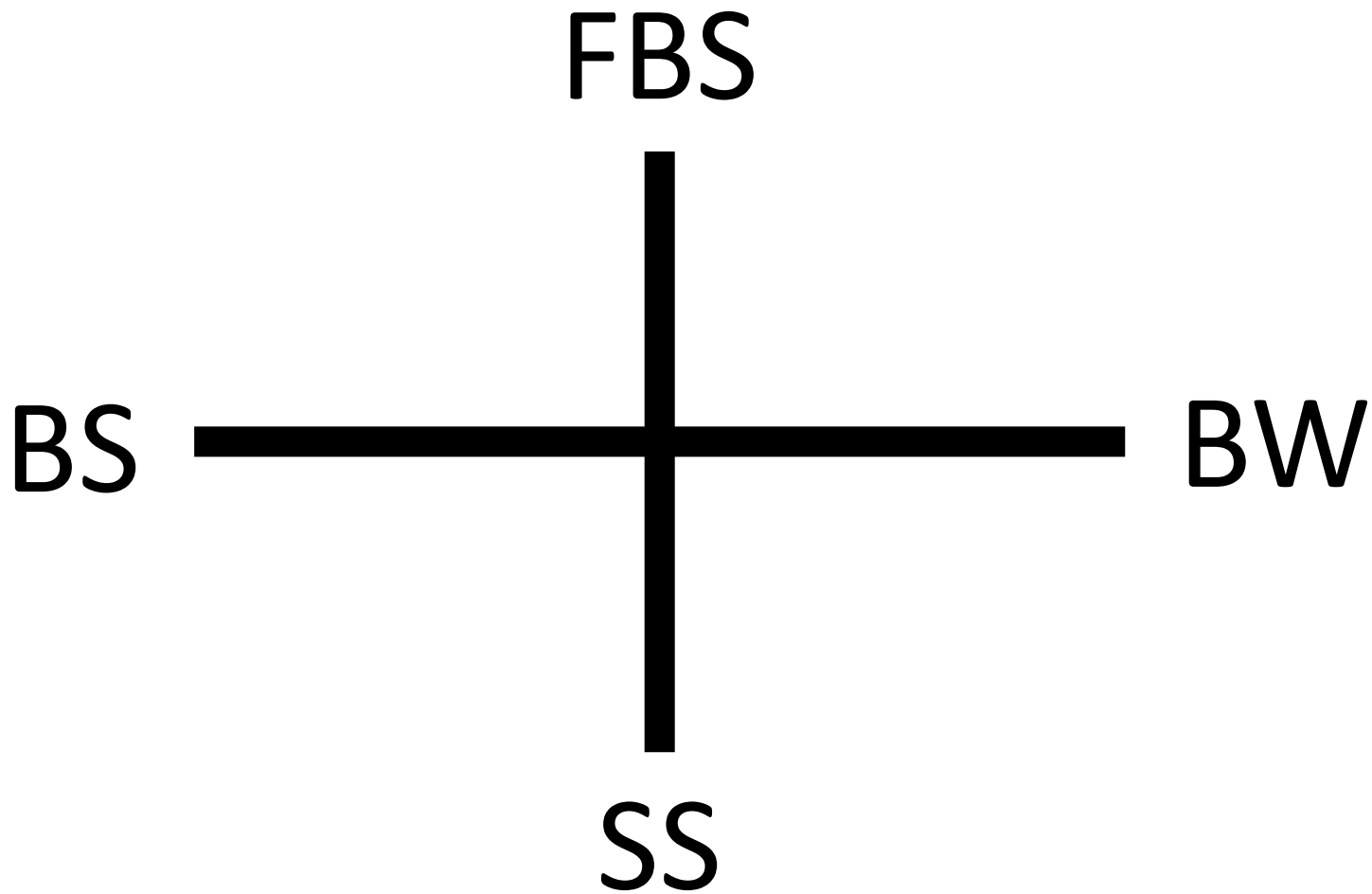
SS : Speedstorming



- ・他家受粉 (いろいろな人と接し、人の考え方に刺激を得られる)
- ・口頭の方がアイデアを表現しやすい人の能力も活きる
- ・声の大きい人への一極集中を避けられる
- ・喋るスタイルの中では、アウトプットがMAXにできる
- ・フィードバックを受けられ、BWよりアイデアを発展させられる
- ・普通の会議中に応用も可 ⇒ 座ったままペアBSタイムをいれる
- ・メモタイムがあり、アイデアが紙に残る (ただし個人の手元に)



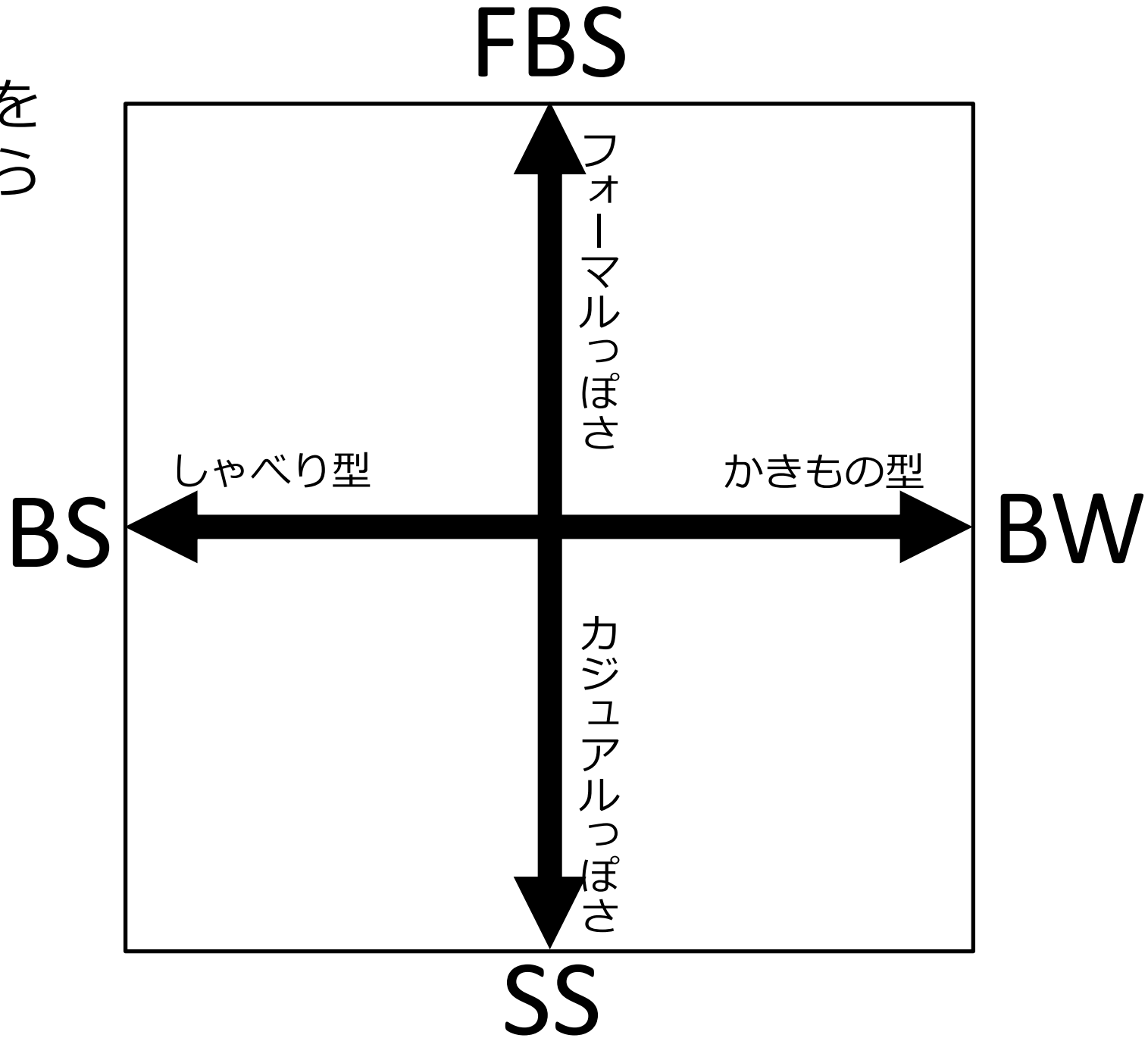
- ・進行に技量が要る
- ・準備が大がかり
- ・時間がかかる
- ・アウトプットに「+αのワーク」 (アイデア書き出しタイム) が必要



使える時間、メンバーの資質、求めるアウトプットに応じて臨機応変に使い分けよう

余談：

軸に名前を
入れるなら



アイデアワーク
各種を配置して
みる

